

- 問1 1858年に江戸幕府とアメリカの間で締結された条約において、下田・箱館のほか、新たに神奈川・長崎・新潟・兵庫の4港を開港することや、在留外国人が起こした事件をその国の領事が自国の法律で裁く権利を認めることが定められました。この条約の名称として正しいものはどれか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
1. 日米和親条約 2. 日米修好通商条約 3. 日米通商航海条約 4. 下田条約
- 問2 1867年に徳川慶喜が政権を朝廷に返したものの、旧幕府側の勢力が依然として政治的影響力を持つことを危惧した薩摩藩・長州藩などの倒幕派が、天皇を中心とする政治体制の確立を目指して発した宣言を何といいますか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 版籍奉還の建白 2. 王政復古の大号令 3. 五箇条の御誓文 4. 廃藩置県の詔書
- 問3 不平等条約における「領事裁判権（治外法権）」の内容として、具体的な事例に基づいた説明を選択してください。 (2017年 山口県公立入試 類似)
1. 日本が特定の国と有利な条件で条約を結んだ場合、他の国に対しても自動的に同じ条件を適用しなければならない。 2. 日本の裁判所が外国人を裁く際に、必ず外国人の裁判官を同席させなければならない。 3. 日本国内で外国人が罪を犯した場合、日本の法律ではなく、その外国人の出身国の法律に基づいて領事が裁判を行う。 4. 日本国内に外国人が住むための特別な区域を設け、その区域内では日本の警察権が一切及ばないものとする。
- 問4 1853年にペリーが浦賀へ来航した主な目的について、当時のアメリカの時代背景を踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
1. 日本国内に眠る金や銀の採掘権を独占し、貿易の決済手段を確保するため 2. キリスト教の布教を全国で認めるよう要求し、宗教的な同盟を築くため 3. 太平洋で活動する自国の捕鯨船などへ、食料や燃料を補給する拠点を確保するため 4. 江戸幕府の軍事力を調査し、日本をアメリカの完全な植民地にするため
- 問5 一八五三年に、マシュー・ペリー率いるアメリカの東インド艦隊が、江戸幕府に開国を求める親書を携えて来航した場所はどこですか。相模湾に面した三浦半島の先端付近に位置する、当時の外交上の重要地点の名称を答えなさい。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
1. 浦賀 2. 長崎 3. 函館 4. 下田
- 問6 1858年に調印された日米修好通商条約では、神奈川、長崎、新潟、兵庫などの開港が約束されました。しかし、幕府は兵庫の代わりに、隣接する神戸を実際に開港しました。当時の資料において、兵庫は多くの人々が住み賑わっていた一方、神戸は人家が少なく管理がしやすい場所であったことが示されています。幕府がこうに開港地を調整した主な理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
1. 神戸には既に最新の造船施設が整っており、貿易の拠点として最適だったため 2. 兵庫の住民たちが開港に強く反対し、幕府に対して大規模な一揆を起こしたため 3. 神戸の方が兵庫よりも水深が深く、大型の蒸気船が停泊するのに適していたため 4. 外国人と日本人との不必要な接触や衝突を避け、管理を容易にするため
- 問7 1840年に清とイギリスの間で起きた戦争で、大国であった清が敗北したという知らせは江戸幕府に大きな衝撃を与えました。この戦争をきっかけに、幕府がそれまでの「異国船打払令」を改めて、外国船に燃料や水を与えて帰す方針とした際に発令した法令を選びなさい。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 慶安の御触書 2. 公事方御定書 3. 天保の薪水給与令 4. 武家諸法度
- 問8 19世紀半ば、イギリスから清（中国）へ大量のアヘンが密輸出されていたことを発端として、清がアヘンの取り締まりを強化したことで発生した戦争は何か、次の中から選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 太平天国の乱 2. アヘン戦争 3. 日清戦争 4. 義和団事件
- 問9 アヘン戦争に敗れた清が、1842年にイギリスとの間で結んだ条約の名前として正しいものを、次の中から選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. ポーツマス条約 2. 北京条約 3. 下関条約 4. 南京条約
- 問10 18世紀後半から19世紀にかけて、ロシアをはじめとする欧米の船が日本近海に頻繁に現れるようになりました。これに対し幕府は、1825年に日本沿岸に近づく外国船を無差別に攻撃して追い払う法令を出しましたが、その後、1842年にはこの方針を緩め、薪や水、食料を与える「薪水給与令」を出しました。このように幕府が強硬な姿勢を改める直接のきっかけとなった、清（中国）がイギリスに敗北した出来事は何ですか。 (2026年 青森県公立入試 類似)
1. 日米和親条約の締結 2. アヘン戦争 3. 生麦事件 4. 矢銭の徴収
- 問11 幕末に生糸が海外へ大量に輸出されたことは、当時の日本国内の産業にどのような影響を与えましたか。その背景を含めた説明として最も適切なものを選んでください。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
1. 海外から安価な生糸が大量に流入したため、国内の養蚕業が衰退し、米の生産への転換が進んだ。 2. 生糸に代わって茶の輸出が増えたため、絹織物業に代わって製茶業が国内最大の産業となった。 3. 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。 4. 生糸の輸出で得た利益が絹織物業に還元されたため、最新の機械が導入されて生産効率が飛躍的に向上した。
- 問12 1857年から1861年にかけて、江戸幕府はイギリス、アメリカ、ロシアなどの国々と条約を締結し、貿易が本格的に始まりました。これらの国々と結んだ通商条約において、日本側の主権が制限されていた内容の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2026年 山形県公立入試 類似)
1. 日本に外交権がなく、相手国に港の永久割譲を認める内容 2. 日本に関税自主権がなく、相手国に領事裁判権を認める内容 3. 日本に土地所有権がなく、相手国に軍隊の駐留権を認める内容 4. 日本に貨幣鑄造権がなく、相手国にキリスト教の布教義務を認める内容
- 問13 1838年に誕生した人物が成長し、1867年に大政奉還の建白が行われるまでの幕末の動乱期において、政治的な出来事が起きた順序として正しいものはどれですか。 (2016年 佐賀県公立入試 類似)
1. 日米和親条約による開港が決定する前に薩摩藩と長州藩が薩長同盟を結成し、その軍事力を背景に安政の大獄と呼ばれる弾圧を幕府に行わせた。 2. 幕府が安政の大獄によって反対勢力を一掃した後に日米和親条約を締結して開港し、その数年後に薩摩藩と長州藩が協力して薩長同盟を結んだ。 3. 薩摩藩と長州藩による薩長同盟が結ばれた後、日米和親条約による開港が実現し、その後に幕府が反対派を抑え込むための安政の大獄を断行した。 4. 日米和親条約の締結による開港が行われ、その後、幕府に反対する勢力を弾圧した安政の大獄が起き、最終的に薩摩藩と長州藩による薩長同盟が結ばれた。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 日米修好通商条約	大老の井伊直弼が朝廷の許可を得ずに調印したこの条約は、日本の裁判権が及ばない「領事裁判権（治外法権）」を認め、日本に「関税自主権」がないなど、日本にとって不平等な内容でした。1854年に結ばれた日米和親条約では薪水の供給などが主目的であり、本格的な貿易と港の追加開港はこの1858年の条約によって始まりました。
問2	答え 2 王政復古の大号令	大政奉還が行われた後、徳川氏が実質的な権力を握り続けることを防ぐために発せられました。この宣言により、江戸幕府の廃止とともに摂政や関白といった従来の官職も廃止され、総裁・議定・参与の三職を置くなど、天皇による新しい政治の仕組みが整えられました。
問3	答え 3 日本国内で外国人が罪を犯した場合、日本の法律ではなく、その外国人の出身国の法律に基づいて領事が裁判を行う。	領事裁判権は、本来その国の主権に属するはずの「裁判権」を他国に譲り渡すものです。これにより、日本人が被害者となる事件が起きても、加害者の外国人が軽い刑罰で済まされるといった不公平な事態が発生しました。この制度の撤廃は、1894年に陸奥宗光がイギリスとの交渉で成功させるまで続きました。
問4	答え 3 太平洋で活動する自国の捕鯨船などへ、食料や燃料を補給する拠点を確保するため	当時のアメリカは、産業用の油を得るための捕鯨を太平洋で盛んに行っていました。そのため、航海を続けるための石炭（燃料）や食料、飲料水の補給地、および遭難した船員の保護を目的として日本の開国を強く求めていました。ペリーの来航は、こうした捕鯨船や清（中国）との貿易航路の中継地点を確保するという経済的・実用的な背景がありました。
問5	答え 1 浦賀	当時のアメリカは、中国との貿易を拡大させる過程で、太平洋を横断する蒸気船の中継地（石炭や水の補給拠点）や、捕鯨船の保護を目的として日本の開国を求めていました。ペリーは、江戸に近い三浦半島の浦賀に黒船で現れることで、幕府に強力な軍事的圧力をかけ、長年の鎖国政策を転換させる契機となりました。
問6	答え 4 外国人と日本人との不必要な接触や衝突を避け、管理を容易にするため	幕府は日米修好通商条約に基づき兵庫の開港を約束していましたが、当時の兵庫は物流の拠点で居住者も多く、外国人が入ることで日本人との間で摩擦や衝突が起きることを懸念しました。そのため、人家が少なく居住範囲を限定しやすい隣接地の神戸を「兵庫の一部」として開港することで、外国人との交流を制限し、トラブルを未然に防ごうとしました。
問7	答え 3 天保の薪水給与令	19世紀半ば、アヘン貿易をめぐる対立から清とイギリスの間でアヘン戦争が勃発しました。この戦争で清が敗れたという情報を得た江戸幕府は、従来の強硬な「異国船打払令」を続けることでイギリスなどの強力な軍事力を持つ国と紛争になることを恐れ、1842年に「天保の薪水給与令」を出しました。これにより、日本近海に現れた外国船を無差別に攻撃するのではなく、薪や水、食料を与えて穏やかに退去させる方針へと転換しました。
問8	答え 2 アヘン戦争	イギリスは自国の貿易赤字を解消するために、植民地のインドで生産させたアヘンを清へ密輸していました。清が国民の健康被害や銀の流出を防ぐためにこのアヘンを厳しく没収・処分したことで、イギリスが軍艦を派遣し、武力衝突に発展しました。
問9	答え 4 南京条約	アヘン戦争の講和条約として結ばれたこの条約により、清は上海など5つの港を開港し、香港の割譲を認めさせられました。これは清にとって非常に不利な内容であり、その後、欧米列強による中国進出が加速するきっかけとなりました。
問10	答え 2 アヘン戦争	1840年に勃発したアヘン戦争で、大国である清がイギリスの軍事力に圧倒されて敗北したという情報は、オランダ風説書などを通じて幕府に大きな衝撃を与えました。これにより、従来の「異国船打払令」を続けて外国と武力衝突に発展することを恐れた幕府は、遭難した船などに限り薪や水を与える「薪水給与令」へと政策を転換しました。
問11	答え 3 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。	海外での需要が高まり、生糸が大量に輸出された結果、日本国内の市場に出回る生糸が不足しました。これにより生糸の価格が跳ね上がり、原材料を確保できなくなった国内の絹織物業者が苦境に立たされるという経済的な混乱が生じました。
問12	答え 2 日本に関税自主権がなく、相手国に領事裁判権を認める内容	イギリスなどの欧米列強と結んだ安政の五カ国条約は、日本にとって不平等なものでした。具体的には、輸入品にかける税率を日本が自主的に決められない「関税自主権の欠如」と、外国人が日本で犯罪を犯してもその国の領事が裁判を行う「領事裁判権（治外法権）の承認」が含まれていました。この時期のイギリスは、インド大反乱を鎮圧してアジア支配を強めるなど、世界的な影響力を持っていました。
問13	答え 4 日米和親条約の締結による開港が行われ、その後、幕府に反対する勢力を弾圧した安政の大獄が起き、最終的に薩摩藩と長州藩による薩長同盟が結ばれた。	1854年の日米和親条約締結によって長年の鎖国体制が終わって開港が実現しましたが、これに反対する尊王攘夷派の動きが激化しました。1858年から1859年にかけて大老の井伊直弼がこれらの反対勢力を厳しく処罰したのが安政の大獄です。この弾圧が幕府への不信感を高めることとなり、1866年に坂本龍馬らの仲介によって、かつて対立していた薩摩藩と長州藩が薩長同盟を結び、倒幕の流れが決定的となりました。